

3. 主要施策の概要

I 安心・支え合い最優先

市民の安全・安心の確保と、地域の支え合いを醸成していく取り組みを進める

1. 垂直避難の導入と防災体制のさらなる充実 【予算額 101,951千円】

- 土砂災害時に家屋倒壊のおそれがないエリアにおいて、避難所への避難ではなく自宅の2階に退避する「垂直避難」の考え方を導入し、ハザードエリア別避難行動マップで啓発するほか、イエローゾーンへの高性能防災スピーカーの設置、レッドゾーン内の全世帯への防災行政無線の戸別受信機の設置を行う。
- レッドゾーン内人口ゼロをめざして大阪府及び市独自による急傾斜地崩壊対策工事を実施するとともに、「箕面市水防整備指針」に基づき水防設備の増強工事を進める。

※レッドゾーン：土砂災害特別警戒区域、イエローゾーン：土砂災害警戒区域

2. すべての市民のくらしをサポートする身近な体制の強化 【予算額 101,279千円】

- 市の福祉部門が直轄運営する地域包括支援センターを1所新設し、全5所で14圏域(小学校区ごとに1圏域)を担当する体制にシフトする。4年後に全小学校区への相談窓口の設置をめざして、4つのモデル校区において週2回の「(仮称)くらしのお困りごと相談所」の開設を試行する。

3. 健康長寿をめざして 【予算額 483,386千円】

- シニア塾のプログラム数を1.5倍に増加、健康教室の開催回数も大幅に増加し、高齢者の「お出かけ」のきっかけづくりを強化する。
- 自治会やシニアクラブなど地域の集まりに運動用DVDの貸与とあわせて、健康運動指導者を派遣して効果的な運動方法のアドバイスや効果測定を行うことで、継続的な運動を支援する。

4. 消防の将来需要に基づく消防力の拡充 【予算額 87,794千円】

- 箕面市と豊能町の今後の消防需要を分析した「今後の消防需要に基づく消防力保全計画」に基づき、箕面市域における消防署を現在の3署から5署体制に移行するため、まず最も優先度の高い東部地域において、新たな消防署の整備に着手する。

5. 地域の見守りによる消費者被害の防止 【予算額 18,890千円】

- 頻発する特殊詐欺被害などから高齢者を守るため、「消費者安全確保地域協議会」を立ち上げ、消費者庁から情報提供を受けて犯罪組織から狙われた可能性のある方について、地域での見守りを強化する。

6. 市立病院の移転建替えに向けた取り組みの加速 【予算額 26,390千円】

- 移転先の土地の測量やボーリング調査の実施、新病院の病床数や建物規模を検討する基本計画第2期策定作業に入るとともに、「新市立病院整備審議会」を設置し、基本計画について議論いただく。

II 子育てしやすさ日本一

子育てがしやすく、子どもたちが健やかにのびのびと育つ環境を整える

1. 子どもを見守る体制の見直しと強化 【予算額 306,345千円】

- これまで、大阪府池田子ども家庭センター・池田保健所・市の行政3機関で構成していた要保護児童対策協議会 児童虐待部会に、箕面警察署のほか、弁護士等の専門職を加えて判断の客観性を高め先入観を排除し、対象児童や家庭の最新の状況に即した判断ができる組織へと強化する。
- 要保護児童とその家庭を支援する専門組織「(仮称)児童相談支援センター」を教育委員会に創設し、国の「市町村子ども家庭総合支援拠点」制度(平成29年4月創設)を活用して、10月を目途に専門職を集結した14人体制を構築する。
- 昨年構築した「子ども成長見守りシステム」の活用により、子どもに関するデータの蓄積と分析を進め、小さな変化を見逃さない課題抽出に役立てる。
- 学童保育など放課後関連事業を市教育委員会の直営とし(従来は箕面市社会福祉協議会に委託)、校長の指揮下で学校一体で子どもを守り育てる体制とする。

2. 国際感覚を養う英語教育と環境整備 【予算額 268,649千円】

- 外国人英語指導助手を48名からさらに12名増員し、小学校1年生からの45分英語授業や、1クラスを4分割しての少人数チームティーチングの実施などさらなる充実を図る。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける、ニュージーランド柔道チームのホストタウンとして、子どもたちの国際交流・国際理解の促進活動を展開する。

3. タブレットパソコン1人1台配備と学校ICT環境の整備 【予算額 739,093千円】

- 小学校4～6年生の全員(約4,300人)に1人1台のタブレットパソコンを配備し、9月から授業で活用するとともに、小学校1～3年生、中学生についても各1校に1人1台をモデル配備して教育効果の検証を行う。
- 学校の情報ネットワークを再編し、全教員に1人1台のタブレットパソコンを配布、校務から児童生徒の成績処理まで一貫してタブレットで完結することで、高いセキュリティと業務効率化を両立する。

4. “通年の待機児童ゼロ”の取り組みの継続 【予算額 724,257千円】

- “通年の待機児童ゼロ”を実現すべく、新年度は8施設、定員394人分を整備する。(平成28年度(2016年度)からの合計整備数は13施設、定員644人分)
- 総定員数において「2019年度までに485人分」の目標を達成するが、年齢別では0歳児の待機が解消していないことから、まずはその主要因である保育士不足の解消を進めるとともに、さらなる0歳児待機対策の重点化を図る。

5. きめ細かな子育て支援 【予算額 41,653千円】

- 共働き世帯の子育てを支援するため、市立萱野保育所内に病児保育室5室を開設する(9月予定)。
- これまで入学後に支給していた就学援助の新入学学用品費の支給時期を前倒しし、学用品や制服などを実際に購入する入学前の準備時期に保護者の手元に届くようにする。

6. 学校施設の増改築と船場の新学校設置に向けた取り組み 【予算額 1,100,783千円】

- とどろみの森学園の給食室増改築(H30.9月供用開始)、彩都の丘学園の校舎の増改築(H31年度に全増築棟の供用開始)の工事を引き続き行う。
- 船場の新学校の建設地を確定し(市立病院移転後の跡地)、校区調整に向けて校区審議会やワークショップでの議論を本格化する。

III

緑・住みやすさ最先端

豊かな緑を守り、便利で住みやすく、元気で活力ある箕面をめざして、まちづくりを進める

1. みどりを守る取り組みの充実 【予算額 8,000千円】

- 一定規模を超える太陽光発電設備の建設に規制を設け、良好なまちなみの保全を図る。(山・農地等と山すそは建設を禁止、市街地においては許可制とし景観保護と近隣住民の同意などの許可条件を設定)
- 遊休農地の解消や学校給食での地元産野菜の活用を引き続き進めることに加え、農業者が田畑を維持しやすいように生産緑地地区の面積要件を緩和し、市街地の農地を守る。

2. 環境クリーンセンターの基幹改良工事と長期包括委託 【予算額 490,656千円】

- 環境クリーンセンターの基幹改良工事と施設の長期包括運営委託(約15年間)を一括で実施することにより、施設の延命と安定稼働を実現するとともに、約10億円のコスト縮減効果も生み出す。

3. 都市計画道路の整備と道路の安全対策の継続的な推進 【予算額 2,230,226千円】

- 桜井駅前ロータリーの整備に向けた移転交渉等を進めるほか、北大阪急行線の新駅へのアクセス道路となる都市計画道路の用地買収、工事を進める。

4. 北大阪急行線の延伸と新駅周辺のまちづくりの加速 【予算額 10,566,035千円】

- 2つの新駅の駅舎や国道171号を跨ぐ高架部分の橋脚など、構造物をつくる工事を進める。
- 新駅周辺に整備する公共施設群((仮称)箕面船場駅前エリアにおける新文化ホール、図書館、生涯学習センター、地下駅から地上に至るエントランス、(仮称)新箕面駅のバスターミナルなど)の設計に着手する。